

## 令和2年度 第4回石狩市厚田区地域協議会 会議録

【日 時】 令和2年9月24日（水） 18:00～19:10

【場 所】 厚田総合センター2階ホール

【出席者】 10人（15人中）

役 職	氏 名	出 欠	役 職	氏 名	出 欠	役 職	氏 名	出 欠
会長	築田 敏彦	○	委員	加藤 亞弓		委員	角野 亮太	
副会長	渡邊 教円	○	委員	鎌田 憲一	○	委員	平賀 敏和	
委員	相原 雄太		委員	小山 玲子	○	委員	丸山 真嗣典	○
委員	東 幸子		委員	今 光江	○	委員	森田 瞳	○
委員	大内 さつき	○	委員	笹谷 清一	○	委員	八木沼 英晃	○

※会長・副会長を除き、あいうえお順

企 画 経 済 部 ～中西次長・堂屋敷課長・加藤課長・大内課長

厚 田 支 所 ～東支所長・相原 根副課長・相原 根副課長

地域おこし協力隊 ～江崎隊員・吉川隊員・飯塚隊員・秋葉隊員

事務局（地域振興課）～高田課長・永塚主幹・佐藤主査・寺尾主査

【傍聴者】 1名

- 【次 第】
1. 開会
  2. 会長挨拶
  3. 情報交換（リラックスタイム）
  4. 協議事項
    - ・第7期厚田区地域おこし協力隊の募集検討について
  5. 報告事項
    - (1) 石狩市エネルギー地産地消事業化モデル支援事業について
    - (2) 集落支援員制度の検討状況について
    - (3) イベント等情報提供
  6. その他
  7. 閉会

## 1. 開会

### 【(厚)地域振興課 高田課長】

開会の前に、本日、平賀委員、東委員、加藤委員、相原委員から欠席の連絡を受けているので、報告させていただく。それでは只今から令和2年度第4回厚田区地域協議会を開催する。開会にあたり築田会長からご挨拶をお願いします。

## 2. 会長挨拶

### 【築田会長】

こんばんは。9月もまもなくで終わるが、季節の変わり目で天候がすぐれない日が続く。長雨で影響を受けている方も多く大変だと思う。今日は何点か協議いただくことがあるので早速始めたい。

## 3. 情報交換(リラックスタイム)

- ・鮭漁の状況について～現時点では昨年より順調で石狩市全体で昨年度比160%程度。型は若干小さい。(今委員)
- ・農作業の状況について～今時期だと稲刈りや秋蒔き小麦の作業だが雨が降って作業が進んでいない。米の収穫量はまだ分からないが、刈遅れも一部見られる。(八木沼委員)
- ・道の駅の状況について～こだわり隊で出店した。3日間販売の予定であったが2日間で商品が完売してしまった。ライジングサンのポスター展もあり、この連休中は大変賑わっていた。(小山委員)
- ・ATSUTAショートプログラムモニターツアーについて～少人数による現地集合・現地解散の新しい形のツアーを模索するため、飛ぶ鳥農園の卵収穫体験と宮崎商店のあつた最中づくり体験をモニターとして実施した。これに札幌大球の収穫体験を加えて、10月、11月に本ツアーを実施する予定。(吉川隊員)

## 4. 協議事項

### ①第7期厚田区地域おこし協力隊の募集検討について

#### 【渡邊副会長(厚田区地域おこし協力隊活用検討委員会 委員長)】

資料1 厚田区地域おこし協力隊活用検討委員会名簿 他参照

私から検討委員会の報告と提案をさせていただく。

資料1の名簿をご覧ください。前回の地域協議会で承認いただいた構成団体等を基に選出された委員で、9月7日第1回目の検討委員会を行った。今年度をもって江崎隊員が卒業するが、第7期地域協議会からの引継ぎ事項でもある、厚田区の地域おこし協力隊4名体制の維持に向けて、新年度新たに1名を採用するかどうか、その方向性をこの検討委員会で検討し、その内容をこの協議会で提案させていただくということである。裏面をご覧ください。

1回目の検討委員会でこれまでの振り返りと検証を行った。出された意見として、

- ・コロナ禍で制限された範囲で取り組んでおり、個々の活動として評価できる。
- ・フェイスブックなどの情報発信はこまめに行われ大変頑張っている。反面、スマホやネットなどの環境がない高齢者への認知度が低いのでは。
- ・4人体制となりチームとして活動できるようになったことは評価できる。4人がチームとして取り組んだ手作りマクスの寄贈は非常に良かった。今後も個の力を結集しチームとして活動に取り組むためにも4名体制を維持すべき。
- ・少子高齢化の中、協力隊OB・OGが卒業後も区内・市内に居住し、起業や就業していることは、この制度活用の成果であると高く評価できる。
- ・地域では後継者不足という課題も抱えており、協力隊の地域への関わり・貢献活動は今後も期待されている。などが挙げられた。

検討委員会の検証結果として、地域おこし協力隊は、外部からの視点を活かし、特色ある活動で厚田区の地域振興に寄与することが期待でき、更にOB・OGは石狩市内に居住し、起業・就業を果たしていることから、少子高齢化が激しい厚田区にとってもメリットが大きい。今後も4名体制を維持し、引き続きチームとしての活動も並行して進めていくべき、とまとまった。どのような人材を募集するかは、この後予定されている検討委員会の中で更に詰めていきたい。

まずは、新年度に向けて1名募集することを地域協議会に提案する。私からは以上です。

#### 【 築田会長 】

今、渡邊委員長から提案があったが、この検討委員会には私も含め、6人の地域協議会委員が入っている。一度他の委員の意見も伺ってみたい。地域の中で協力隊について聞いている話でも良いし、直接聞いてみたいことでも結構だが、何でも良いので発言願いたい。

#### 【 森田委員 】

地域の方々から、協力隊を入れたことが地域にとってプラスになったという意見をいただいているのであれば、OGとしてうれしい。これからも募集を続けていくのが良いと思う。自分としては4人ということではなく、もっとたくさん入れてほしいと思う。性別、年齢もより幅広くなると楽しい活動ができるのではないかと。定住が目標になると大変なので、厚田を好きになり、他の地域に行っても厚田に遊びに来たり、厚田のことを広めてくれたり、という人がいても良いと思う。

#### 【 八木沼委員 】

最近が目立って活動していると思う。協力隊から電話で相談を受けることもある。自分は望来だがこの地域では知っている人と知らない人の差があると思う。厚田の人は見かける機会が多いので知られているとは思いますが、4名体制の維持は賛成。

#### 【 鎌田委員 】

検討委員会の中で、JA女性加工グループに女性隊員が手伝いに行つて大変助かったという意見がある。コロナ禍の中での活動は大変だと思うが、もっと地域に入り込んで存在感を高めていただきたい。4名体制は異議なし。

#### 【 今委員 】

4名体制の維持は賛成。今後は高齢者にも情報提供できる情報発信の方法を考えてほしい。

#### 【 丸山会長 】

個々には自然や観光、インスタ、情報発信など得意分野を活かした活動を積極的に行っていると思う。また厚田学園のあいさつ運動やCSのオブザーバーとしても協力いただいております。ただチームとしての活動はちょっと物足りなさを感じる。厚田学園も「厚田学」という地域おこしに取り組んでいる。協力隊の皆さんとももう少し密に連携したいと思うし、チームとしても協力をお願いしたい。何も無い時でも結構なので、ぜひ厚田学園に足を運んでいただきたい。雑談しながらやれることが見つかる場合もあるのではと思う。

#### 【 笹谷委員 】

鎌田委員の発言にもあったが、JA女性加工グループが大変助かったという意見が一番目に入った。自分の活動の他、地域おこし協力隊という意味では、地域おこしの部分だけでなく、こういった地域に協力するというのも素晴らしい活動の一つだと思う。人数を減らす理由は特段ないと思う。今も個性あるメンバーが揃っているが、こういう風に地域おこしをしたいという明確な目的を持った方が採用されることを期待する。

#### 【 築田会長 】

今いただいた意見は、今後の検討委員会で生かしていきたいと思う。また、隊員の皆さんもこれからの活動に貴重な意見として生かしていただきたい。

では、検討委員会からの提案について審議に入る。提案どおり協力隊の4名体制についてはこのまま継続し、地域協議会としては、新年度に向けて石狩市に1名の隊員募集をお願いするというところでよろしいか。他に意見はないか。

#### 【 全委員 】

意見なし。全会一致で提案どおり承認。

## 【築田会長】

では、渡邊委員長、お忙しい中大変だと思うが、よろしく願います。

## 5. 報告事項

### ①石狩市エネルギー地産地消事業化モデル支援事業について

#### 【（石）企画経済部企業連携推進課 堂屋敷課長】

資料2 エネルギー地産地消事業化モデル支援事業 参照  
石狩市企画経済部企業連携推進課の堂屋敷と申します。

厚田区の地域協議会に久しぶりに参加をさせていただいた。我々が今取り組んでいる石狩市エネルギー地産地消事業化モデル支援事業についてご説明させていただく。この場で初めてこの事業名を聞いた方もいると思うが、この事業の目的を簡単に説明すると、地域のエネルギー、地域の電気で避難所となり得る厚田学園に電気を供給して、地域の皆様に電力供給を通じて停電リスクを軽減し、安心して暮らせる地域づくりを支援するというもの。いよいよ来年から工事が始まる。

では、資料2により説明をさせていただく。

#### 主な説明内容

- ・太陽光発電による発電設備と水素エネルギーシステムの導入。
- ・太陽光発電で発電した電気を水電解装置により電気分解し発生した水素をタンクにため、災害時に水素エネルギーで燃料電池を回して電力を発生させ供給する。
- ・災害時に厚田学園に供給する。余剰分は他の施設に供給することを検討しており、可能な供給量を現在精査中。
- ・通常時は北海道電力の商用供給電力供給網と合わせ太陽光発電で発生した電気を施設に供給。
- ・電力の発生量は物理的な面積で決まるが、0から1を作る事業であり、地域のエネルギーで地域の電力を賄うという仕組みの構築を目的に進めており、今後の発展が可能になる。
- ・今年の11月以降、施設を設置するための基礎的工事の着手を予定している。ただし、降雪の際は翌年度にずれる可能性もある。5月頃本格的な造成基礎工事、8月頃設備設置、10月頃事業者の担い手を公募、1ヶ月から2ヶ月で事業者を決定、その後、試運転をしながら2022年3月末～4月頃本格的な電力供給を行う。
- ・事業を行うための検討会を設置し、技術的な部分、学識経験者にも加わっていただき専門的な部分から助言いただく。地域協議会にも参加いただき、地域の声も集約しながら有意義な事業にしていきたい。
- ・事業自体が長期的に存続できるための方法を考えて進めており、主に議論の中心は事業性であった。公共が仕組みを作り事業性を担保した上で継続的に収益を得て、事業自体が存続できる方法をこれまで模索しており、その方向性が見えた中で進めている。
- ・事業の実施にあたり地域の協力は欠かせない。引き続きこの事業に注目いただき協力をお願いしたい。

## 【築田会長】

今ご説明をいただいたが、委員の皆さんから何か質問はないか。

## 【渡邊副会長】

何点かご質問させていただきたい。1点目停電時に道の駅、厚田学園に送電するとあるが、どれぐらいの期間送電できるのか。2点目に公募で民間企業の運営会社を決めるとのことだが、民間企業としてこのシステムで収益が図られるのか。当然収益が見込めなければ運営する会社もないのではと思うが。

## 【（石）企画経済部企業連携推進課 堂屋敷課長】

基本的に厚田学園に停電後72時間の電力供給を考えている。ただ厚田学園の施設全てに電力供給することは無理な

ので、避難所運営に係る最低限のエリアで検討している。その際の余剰分を周辺施設へ供給したいと考えている。収益については、通常時は北海道電力と、この施設で発生した電力を混ぜて供給するが、この時の売電益が収益になり、たくさん発電できれば出来るほど収益になる。この地域の日照率、日照時間から推算してどの程度売電できるかを検証し、今のところ黒字になるという一定の結論が得られたので、現在この事業を進めているということを理解いただきたい。

【 渡邊副会長 】

最後に、以前私が聞いた説明の中では、ランニングコストが300万程と聞いた。その辺は改善できたのか。

【 (石) 企画経済部企業連携推進課 堂屋敷課長 】

300万程というのは燃料電池自体の維持管理に必要なコストで、現在は格段に減らす仕組みが構築されつつある。実はプロポーザルを行い、安く実施可能な仕組みを民間企業から提案を受けており、現在そちらと手続きを進めているところ。

【 小山委員 】

11月から工事着工ということだが、図面に書かれている電線のルートについて、埋設なのか、電柱を立てるのか教えていただきたい。

【 (石) 企画経済部企業連携推進課 堂屋敷課長 】

このルートは既に北海道電力の電柱が立っている場所。実は埋設はかなりのコストがかかること、メンテナンスが大変ということで、現在、北海道電力の電柱に共架させてもらうことを北海道電力と協議中。結論が出たら、再度地域協議会にも情報提供させていただきたい。

【 鎌田委員 】

設備が完成した際、携わる職員はどのような形になるのか。民間会社の人が常駐するのか、必要な時だけ来るのか伺いたい。

【 (石) 企画経済部企業連携推進課 堂屋敷課長 】

今は技術が進んでおり、基本的に遠隔でモニタリングしながらになると考えている。何かあった時は駆けつけて保守を行い、万が一不測の事態で動かなくなっても、北海道電力の系統とつながっているため、そちら側から電力が供給される仕組みであり停電するということはない。ただ、なるべくそういった事態にならないよう、保守点検を定期的に行いトラブルを回避するよう検討している。

【 築田会長 】

平成30年の7月だったと思うが、最初の説明の際は道の駅の山側に風力発電を立てて、風力発電とソーラーと両方の電力を供給する計画だったと思う。その後風力発電は事業費がかかるので、ソーラーのみというのを何かの新聞記事で読んだが、風力発電のコストはそんなにかかるものなのか。

【 (石) 企画経済部企業連携推進課 堂屋敷課長 】

風力発電自体は汎用品で考えていたので、それほど高くないが、山の方に設置するということで、土木工事と送電線が長くなるため、コストがかかるので、それで止む無くあきらめた経緯がある。風力発電を止めた分の発電量はソーラー側の施設面積を大きくすることでカバーするよう計画している。

## 【 築田会長 】

他に質問はないか。なければこれで石狩市エネルギー地産地消モデル支援事業に係る報告を終わる。企画経済部企業連携推進室の皆様、ありがとうございました。

## ②集落支援員制度の検討状況について

### 【 笹谷委員（集落支援員制度活用検討委員会 委員長） 】

資料3 集落支援員制度の検討状況について 参照

私から検討委員会の進捗状況を報告させていただく。資料3をご覧ください。8月26日に1回目の集落支援員制度検討委員会を開催し、委員長に私、笹谷を、副委員長に平賀委員を互選により決定した。検討委員会はこれまで3回開催し、“なぜ、今集落支援員なのか？”を含め、制度を「知る」こと、厚田における支援員のイメージや活動内容などの方向性を「探る」ことについて、ワークショップなども交えながら、議論を深めている。

また、9月1日には、制度をより深く学ぶため、支援員を設置している先進地の視察として、事務局を含めた9名で白老町に行き、意見交換をさせていただいた。この視察では、町の担当者のほか、集落支援員4名からもかなり具体的な話を聞くことができた。視察までの期間が短い上、かなりの数の質問を事前にお伝えしていたが、非常に詳しく、丁寧な回答をいただき、今後、私たちが検討を始めるにあたりとても参考になった。

今後、検討委員会で更に検証を進めたのち、地域協議会や自治連合会、民生委員児童委員協議会などの団体とも意見交換をさせていただきたいので、その際はよろしく願います。

なお、厚田区に必要とされる集落支援員の姿や導入可否については、時期が来たら地域協議会へ答申させていただく。私からは以上です。

## 【 築田会長 】

今、笹谷委員長から報告あったが、今回は経過報告なので質疑は受けないこととする。

## ③その他～情報提供

### 【（厚）地域振興課 佐藤主査】

添付資料 「RSR展 in あいろーど厚田」 参照

9月18日から10月11日までの日程で、株式会社あい風が主催する「RSR展 in あいろーど厚田」が道の駅2階で開催されている。RSR歴代ポスターが展示されているほか、期日限定でグッズの販売も予定されている。興味のある方はぜひ道の駅に足を運んでいただきたい。

その他、前回の地域協議会から本日迄の新聞記事についてまとめているので参照願いたい。

## 【 吉川隊員 】

添付資料 ATSUTAショートプログラムモニターツアー（案） 参照

情報交換の際に事前モニターツアーについてお話ししたが、その内容を精査して、10月に2回、11月に1回、計3回の現地集合・現地解散の着地型ショートプログラムを本ツアーとして実施する予定。それぞれ2時間以内のプログラムで、終了後は厚田区や浜益区の見所など、ドライブ観光で楽しめる場所を中心に私から紹介させていただき、自由に周遊して帰っていただくもの。現地集合・現地解散のプログラムは厚田区では新しい取り組みだと考えており、体験型の商品として評価いただければ、次年度も継続して実施したい。今後も同じく短時間で出来るプログラムを増やして、厚田を訪れた方がいろんな選 択肢で楽しめる企画を充実していきたいと考えている。

委員の皆さんからも、こんなことが出来るとか、何か面白い情報があれば私、吉川まで連絡いただきたい。

## 【 築田会長 】

添付資料 「第2回CSあいさつ運動のお知らせ」 参照

厚田CS委員会の地域コーディネート部会の事業についてお知らせする。10月15日木曜日に2回目のあいさつ運

動を行う。通常はスクールバスで厚田学園まで直接登校するが、この日は厚田支所前で降車し、歩いて学校へ登校する。地域の皆さんから子どもたちに声をかけていただきたい。

また、10月16日金曜日に厚田・別狩地区限定になるが避難訓練を行う。地域住民の方と一緒に実施したいので、該当する自治会、町内会等、地域の方にもぜひ参加いただきたい。

#### 【 渡邊副会長 】

添付資料 「厚学サポートと隊を募集します」 参照

厚田CS委員会の学校支援部の事業を紹介する。厚学サポート隊の募集チラシを今月末に全戸配布する。調理実習や、放課後学習など、ボランティアで協力いただける方にぜひお願いしたい。まずは登録していただければと思う。

厚田CS委員会の取り組みについては丸山委員から補足願う。

#### 【 丸山委員 】

9月15日、1回目のあいさつ運動は地域の方40人が参加してくれた。子どもたちの笑顔に癒されたなどの声をいただいた。2回目はよりたくさんの方に参加いただければと考えている。地域と学校がWinWinの関係になればと思うので、よろしくをお願いしたい。

また、厚学サポート隊については学校授業だけでなく、学校行事への協力もあるので、ぜひ協力をお願いしたい。その他、新聞に掲載されたのでご存じの方もいると思うが、厚田学の第1弾として、道の駅でバッテラを販売している<sup>ふみいち</sup>二三一さんから、新商品「厚田いなり」のパッケージデザインを子どもたちに依頼された。今子どもたちがいろいろと調べながらデザインを作っているところ。9月30日に<sup>ふみいち</sup>二三一の田谷部長に来ていただき、パッケージを決めていただく流れになっている。

その他、10月16日にソクラテスミーティング行う。子どもたちに就きたい職業をアンケートで聞き、それぞれの職種の方々に来ていただくもので、学校支援部の協力をいただき実施できる運びになった。

#### 6. その他

##### 【 (厚) 地域振興課 高田課長 】

今回は、10月21日水曜日18時から望来コミュニティセンターみなくる1階多目的ホールで提案させていただく。

#### 7. 閉会

##### 【 築田会長 】

全体を通して何かないか。なければこれで本日の協議会を終了する。委員の皆さんご苦労様でした。

#### ○次回の日程について

令和2年10月21日(水)18時00分～ 望来コミュニティセンターみなくる1階多目的ホール

令和2年10月2日 議事録確定

石狩市厚田区地域協議会

会長 築田敏彦